小手ヶ谷用水ともいひ、勅橋川の水を引くこと一二粁に垂んとする。江沼志稿に、『延寶七年十一月神谷内膳矢田野へ溜越、廣橋五太夫新開江筋見立繩張す。同八年二月下旬江筋普請初り、八月廿三日成就、矢田野へ水下る。于今八月廿三日矢田野鎭守勅使寶江山祭禮あり、慈光院相勤。同日夜中村の宮にて角力・躍之節御紋付灯燈を燈す事、於于今昔之通也。』と見え、又江沼郡雜記に、『矢田野用水の源は、勅使村領寶江山の南、横北村領に御畑堰有り。此より流れ、那谷川に合し、底樋にて十文字に那谷の下を通り、小手ヶ谷を經て御畑に至り、月津村領かりやの掛樋を通り、串村領の堤へ入る。昔此用水の御普請容易の事に非ずといへり。左もあるべし。小手ヶ谷の山を切貫き、又御畑邊高土居の氣色、今も目を驚かせり。其比庄村に十村有りて、名を善助といふ。此者に頭取被仰付しに、青竹を以て人足を叩き立てしとかや。其時のうた今も庄村に殘りて、三度飯食ても小手が谷はいやぢやいやな善助さんの青竹に、と諷ふといへり。』とある。

ヤタヒロツラ　矢田廣貫　通稱六郎兵衞。前田土佐守直躬の家老職を勤め、傍ら長谷川派の畫を能くして四如軒又は四如翁と號した。寛政六年五月五日七十七歳を以て歿。その著に吉野十景遊覽圖記がある。

ヤタベ　矢田部　→ヤタ　矢田(鹿島)。

ヤタベテンジンシヤ　矢田部天神社　鹿島郡矢田の松尾山に鎭座し、矢田・竹町・古屋敷・天神河原・後畠五ヶ部落の産土神である。

ヤタリヨウケイ　矢田良桂　加賀藩の外科醫で、百五十石を領し、享保元年歿。子孫周傳・養安・周伯恒之等相繼いだ。

ヤチ　谷内　能美郡河田の内の小字。

ヤチ　谷内　河北郡英田郷に屬する部落。

ヤチ　谷内　羽咋郡酒見の内の小字。

ヤチ　谷内　鹿島郡金丸の内の小字。

ヤチ　谷内　鹿島郡萬行の内の小字。

ヤチ　谷内　鹿島郡熊木院に屬する部落。

ヤチ　谷内　鳳至郡河原田郷に屬する部落。能登名跡志に、『谷内村に千右衞門といふあり。昔は此山(高洲山)の一乘といふ所にありしより、一乘(ヒトノリ)千右衞門といふ。先祖は主馬判官盛久の子信吉といふ人の子孫也といへり。又同村の打越の與兵衞といふ百姓も、鎌倉權五郎景政の子孫のよし。』とある。大日本地名辭書には、日本後紀大同三年の條に見える大市驛を、三井・大市・待野と次第するを見れば、里程の上からこの谷内村あたりであらうと言うて居るが、別に根據のあるわけではない。

ヤチ　谷内　鳳至郡釜屋谷の内の小字。

ヤチ　谷内　鳳至郡中齋の内の小字。

ヤチ　谷内　鳳至郡鈴屋の内の小字。

ヤチガハ　谷内側　鹿島郡三引の内の小字。

ヤチカミ　谷神　羽咋郡熊野方郷に屬する部落。

ヤチカミクマノシヤ　谷神熊野社　羽咋郡谷神に鎭座する。熊野郷の惣社であつたといひ、毎年舊十一月四日に赤雪の祭が行はれた。古へこの日熊野郷内に紅雪が降つた爲であるといふ。

ヤチジ　谷内地　鳳至郡西山の内の小字。

ヤチジ　谷内地　鳳至郡大野(今の東大野)の内の小字。

ヤチホコジンジヤ　八千鉾神社　羽咋郡町(部落名)に鎭座する。寶暦の社號帳には大穴持社とあるものであるが、天明中から梨谷小山社と互に大穴持像石神社たることを爭ひ、終に本社は八千鉾神社と改めた。

ヤチヤマ　谷内山　河北郡多田部落の東北に在る山。高さ一〇二米。地質第三紀層。

ヤチヤマジ　谷内山地　鳳至郡里の内の小字。

ヤチワダ　谷内和田　鳳至郡和田の内の小字。

ヤツヅカヤマ　八塚山　河北郡御所の北方、小坂地内の山脊に小丘狀をなすものが八個あり、里人は八塚山と稱する。三州紀聞に、『御所村領内に、昔二條の御所御屋敷跡之由に而、村之上に有之候。右屋敷跡より五六町後の山の嶺に、塚八つ御築かせの由に而今に有之。何塚とも不知候。』とある。しかし之を墳塋とは見られない。

ヤツデノタキ　八手ノ瀧　能美郡丸山地内で、部落から東北二粁餘を隔てた芋谷に在る。高さ二四米。

ヤヅメキヨカハコ　箭集清河子　三代實錄光孝天皇の仁和元年十二月廿一日の條に見える節婦道今古の母である。清河子年廿一で初めて嫁し、その夫の歿後再醮せずして節を守り、齡七十六で終つた。

ヤトク　矢德　→ヤトクヲギノヒラ　矢德荻平。

ヤトクヲギノヒラ　矢德荻平　鳳至郡七浦に屬する部落。明治中に至り矢德と改めた。

ヤドミハラ　宿見原　鳳至郡上河内の内の小字。

ヤドメ　宿女　羽咋郡堀松庄に屬する部落。能登名跡志に、氣多神社の御出祭のことを述べて『昔は道筋遠くて、甘田の保へかゝり、宿女村の宮に御一宿ありし也。依て宿女の名有。』と記する。

ヤドメシヤ　宿女社　羽咋郡宿女に鎭座する。能登誌に、『宿女宮は椎葉圓姫神社と號して、石動山天漢石三つの一つにて、山御同体の神也。神体は石なり。』とある。式内椎葉圓比咩神社たるを主張したこともあるのである。

ヤドメヅカ　矢留塚　江沼郡富塚の田間に在つて、周圍二〇米、雜木を生じてゐる。昔松山城と片山津のミサラシ城と互に矢を射合うた時、塚の神が之を留めて、双方の矢が共にこゝに落ちたとの傳說を存する。

ヤナガセノエキ　柳ヶ瀨の役　天正十年柴田勝家は、羽柴秀吉の勢力が勃興したのを快からずとしたが、先づ伴つて前田利家等を遣はして、十一月和親を締せしめた。しかも秀吉は勝家の眞意を察し、十二月夙くも柴田勝豐を誘うて己に黨せしめ、その城地長濱を以て北國を制するの本據とし、同月岐阜に於いて神戸信孝と締盟した後、直に柳ヶ瀨附近に至つて地理を踏査し、翌十一年正月再び同地に至り、壘を天神山に築き、丹羽長秀をしてこの方面の監視に任ぜしめ、二月伊勢に往いて勝家の同盟瀧川一益を討伐した。勝家乃ち焦燥に堪へず、同月七日沿道の雪を除いて兵を近江に入らしめたが、その總帥は佐久間盛政で、先鋒は前田利家以下を率ゐて北庄を發し、九日近江に入り、陣を柳ヶ瀨に近き内中尾山に張つた。秀吉は勝家の出陣を聞いて伊勢